

(第1会場：4F大研修室)

午前

■司会 内藤 妙子 福岡県南筑後教育事務所 社会教育主事
藤中 俊臣 山口県楠町教育委員会生涯学習課 派遣社会教育主事

1. 吉武小学校のホームステイ通学合宿

— 米三合校区内留学 —

10:45~11:10

石松 豊幸〈福岡県〉 宗像市立吉武小学校 吉武っ子ふれあい会議 会長

「校区内留学」は、通学合宿とホームステイによる地域間交流の二つの目的を同時に追求している。子どもたちは他者のお世話になることで感謝の気持ちを育む。ホームステイを提供する側も地域の子どもを知ることになる。そこには、礼儀作法も、緊張感も、共同作業も内包されている。支えているのは10団体から構成されている「吉武っ子ふれあい会議」である。

2. 「まつもと融合教育」

— あの子も、この子も、地域の子、みんなで育てよう松元っ子 —

11:10~11:35

窪園 昭宏〈鹿児島県〉 松元町教育委員会社会教育課 社会教育指導員

子どもの生活の場は、生涯学習の場であるという認識のもとに、学校、PTA、公民館、スクール・ボランティア、子ども会、スポーツ少年団等が“青少年教育融合体”として、共通の目標を掲げて青少年の指導にあたった。活動の成果は「まつもと融合教育実践研究」として定例的に公開している。まち全体の教育意識の向上が見られ、学校、家庭、地域の一体的活動が進んでいる。

3. 日南町民ミュージカル

— 子どもたちが光り輝くまちに —

11:35~12:00

久城 隆敏〈鳥取県〉 日南町ミュージカル制作実行委員会 事務局

平成8年、日南町総合文化センターのオープンを機に、地域文化の活性化、異世代間の交流を目指して、町民ミュージカルの上演を企画した。実行委員会を結成し、あらすじ、脚本等も手作り。平成12年からは大阪の放送児童劇団との交流も始まる。作品の成果は、地元は勿論、県内外でも公演を実施し、郷土意識の涵養と人的交流の広がり貢献している。

4. 総括討論

12:00~12:30

研究発表①

1 日 目

(第2会場：4F視聴覚室)

■司会 市木 良子 福岡県犀川町立犀川中学校 教諭
中野 孝司 高知県吾北村立清水第一小学校 教頭

午前

1. 子ども会の組織化、活性化、ジュニアリーダーの自立化

— 豊野町子ども会の発展史に見るジュニアリーダーの役割と意味 — 10:45~11:10

東田 誓〈熊本県〉 豊野町子ども会育成会 会長

子ども会の活力はそれを見守る育成会の発想と思想が鍵になる。子ども会の組織化も活性化も、子ども自身の主体性が活かされない限り達成は困難である。豊野町ではジュニアリーダーの自立化が子ども会発展の鍵になるという視点で、研修、支援を続けている。ジュニアリーダーの輪が広がり、その活動を通して、子ども会を支える人材が確実に育ってきている。

2. 青少年の社会貢献機会の創造

— 大分県青少年ボランティアセンターの試行錯誤 — 11:10~11:35

工藤 喜賀〈大分県〉 大分県青少年ボランティアセンター 前ボランティアコーディネーター

社会は子どもたちの為に様々なプログラムを提供してきた。しかし、子どもたちは社会の為に必ずしも十分な貢献をしていない。青少年ボランティアの目的は、学校外活動の促進とボランティアマインド（社会貢献の精神）の醸成である。センターは青少年の自己負担を軽くするため活動の経費を支援し、広く県内にボランティアの受け入れを呼びかけた。発展の鍵は各市町村における青少年ボランティアコーディネーターにあると想定している。

3. 「一人前」の予行演習

— ふるさと貢献に挑戦する「子どもヘルパー」事業 — 11:35~12:00

井 隆博〈熊本県〉 産山村教育委員会 社会教育主事

子どももむらおこしの主体となりうる。「子どもヘルパー事業」は、子どもの地域貢献力に着目し、高齢社会の役割を引き受ける活動舞台を設定した。結果的に子どもからも、お年寄りからも、活力を引き出すことに成功した。主催は社会福祉協議会であるが、教育委員会と学校の協力なくしては実現しない。「学社融合」の事業でもあり、「社会が子どもたちのために何ができるか」から「子どもたちが社会のために何ができるか」へと発想の転換を実現した事例でもある。

4. 総括討論

12:00~12:30

(第3会場：2F第4研修室)

午前

■司会 石川 順雄 広島県立生涯学習センター 専門員
佐々木 直 島根県西部生涯学習推進センター 社会教育主事

1. 出前「朗読劇」による男女共同参画の展開

— ちょこっとばっかい女の問題提起 —

10:45~11:10

小副川ヨシエ〈佐賀県〉 佐賀市女性の会 前会長

男女共同参画についての問題提起を朗読劇化し、公民館および各種団体への出前講座の形態を駆使して活動。佐賀市女性の会の中心的啓発運動。準備開始は平成12年。シナリオから上演まで、手作り。グループ・ディスカッションを重視し、小集団を対象とした活動から出発している。

2. 手づくり・輪づくり・人づくり「下関紫陽花会」の6年の軌跡

— ボランティア活動と男女共生社会をめざした生涯学習 —

11:10~11:35

貞光 博子〈山口県〉 下関紫陽花会 会長

親睦を目標に出発。5部会に役割分担を行ない「一人一役」を原則としている。男性会員も受け入れるが、30%以内。主たる活動内容はボランティア活動と男女共生社会づくりのための学習。実働会員のほかに支援して下さるサポート会員を登録し、定例的な活動報告および交流会をおこなっている。継続の基本は「楽しいこと」、活動の基本は「小さな成功」から。小さな花がたくさん集まって大きな花となっている「紫陽花」のように、が名称の由来である。

3. 住民の住民による住区まちづくりビジョン会議

— 子どもたちの「ふるさと」づくり活動 —

11:35~12:00

栗栖 孝子〈広島県〉 広島県女性リーダー・リーベの会副会長、府中町女性会副会長

町内会、PTA、女性会、公衛協、町民会議、ボランティアの人達に加えて、住区委員を公募し、年間、20回余の話し合い、フィールドワーク、町内探訪を経て、コミュニティの「人・もの・事」についての現状の診断、問題の提起を行なった。子どもたちの「ふるさと」づくりの視点から「まつり」、イベント、「達人」づくり、「風景」づくり等について提言。会議を機に発足した「勝手に達人クラブ」は、現在地域公民館を拠点に活動中である。

4. 総括討論

12:00~12:30

(第4会場：2F自由研修室)

■司会 村上 正 佐賀県教育委員会生涯学習課
葉名 雅之 広島県立生涯学習センター 主任専門員

午前

1. 「城下町中津のひな祭り」を支える市民グループ

— ぎやらりい「もろまち」の多目的活動戦略 —

10:45~11:10

幸下 政己〈大分県〉 ぎやらりい「もろまち」 隊員

ぎやらりい「もろまち」は多目的活動グループである。発足時の活動は山の自然環境の保全であったが、中津市との“協働”を契機に、街並保存、地域おこしの分野にも活動内容を拡大し、さらには近隣町村の地域活性化行事にも協力するようになった。会員の学習、環境保全活動、福祉ボランティア、地域おこし、地域イベントへの協力など多面性が最大の特徴である。

2. 「突撃はえばる探検隊」

— ボランティアで立ち上げた沖縄初のローカルテレビ番組 —

11:10~11:35

前城 充〈沖縄県〉 南風原町役場経済振興課

有線テレビ局の協力のもと、町内有志がボランティアで立ち上げた沖縄初のローカルテレビ番組。生涯学習情報の発信、近隣市町村への波及効果、町のアピールなどに大きな貢献が見られた。放送のレベルを確認するため、広報コンクールに出品。審査員特別賞で沖縄代表となる。平成12年度からは行政が企画にバックアップ、正式な町の広報番組へと成長した。

3. 高齢者のための企業支援：「安全リフォーム」の奉仕活動

— 福岡県商工会地域貢献事業の17年 —

11:35~12:00

力丸 信幸〈福岡県〉 福岡県商工会 会長

家屋に関する修理等で、町外の業者とトラブルが後を絶たない現状を見兼ねた福岡県の商工会。昭和61年から、トラブル防止のために地元業者（商工会会員）は、高齢者所帯を対象として、手間賃無料の奉仕活動を実施してきた。必要とする高齢者に活用してもらう為に積極的に広報活動も行っている。現在では、年中行事として定着し、商工会の地域貢献の場として認知されている。

4. 総括討論

12:00~12:30

(第1会場：4F大研修室)

午後

■司会 小山 将範 島根県教育委員会東部教育事務所 社会教育係長
永楽 悦子 大分県教育庁生涯学習課 社会教育主事

1. 「学社融合」戦略の研究と地域のゲストティーチャーによる学校支援の実践的研修

— 佐賀県における「学校と地域の融合研究会」の取り組み —

13:30~13:55

江口 浩文〈佐賀県〉 佐賀市立本庄小学校 教諭

研究主体は「学校と地域の融合研究会」である。平成12年度の発足以来、定期的な研修会を開催している。目的は学社の融合を通して、生涯学習の推進と学校開放の推進を進めることである。研究はあくまで実践を想定してゲストティーチャーの招聘・実演を取り入れ、具体的な企画の提案を想定している。

2. ^{はたがさこ} 畑迫「ほたる祭」と「総合的学習」の融合

— 地域の願いと学校の思いを通わせて —

13:55~14:20

澤江 健〈島根県〉 津和野町立畑迫小学校 教諭

「ほたる祭り」は地域の祭りであったが、「総合的学習」と融合することによって学校の祭りともなった。ふるさとを愛する児童の育成と地域の活性化目標を繋ぐことによって、地域の願いと学校の思いが通い合っただけでなく、具体化した事業である。祭りは子どもたちの活躍の場であり、同時に学習の発表の場ともなった。地域の大人たちも子どもたちの活動にふれ、地域で育むという視点が具体化した。それは当然、教職員の意識にも反映している。

～ティータイム～

14:20~14:55

3. 「協働」生活体験学習の成果と課題

— 地域における「協働」理念の浸透 —

14:55~15:20

久保田博樹〈福岡県〉 高田町江ノ浦校区「協働」生活体験学習実行委員会 平成13年度実行委員長
野田圭一郎〈福岡県〉 高田町江ノ浦校区「協働」生活体験学習実行委員会 平成14年度実行委員長

「協働」生活体験学習とは、希望した5~7名程度の異年齢の子供たちが、地区の自治公民館などで数日間寝食をともにしながら、学校に通ういわゆる通学合宿である。原則は子供たちの自治。保護者は2名程度が交代で泊り込む。目は話さないが、手は離す。通学合宿の基本は「失敗は教育効果をあげる」である。

4. 地域の身近な畑を生かした小学校農業体験学習

— 内田小ヤッホー農園活動 —

15:20~15:45

横田 明子〈熊本県〉 菊鹿町立内田小学校 前校長

農業体験学習には年間35時間の教育活動をあてている。対象は全学年児童、活動の場所は9つの行政区にそれぞれ確保した農園や公民館分館等をあてている。3年生以上は総合的学習、1、2年生は生活科の時間として位置づけている。畑が地域と学校を結ぶ交流の場となり、子どもたちも主体性が育ち、地域の活性化にも繋がっている。

5. 総括討論

15:45~16:15

研究発表②

1 日 目

(第2会場：4F視聴覚室)

■司会 山根 義治 沖縄県立玉城少年自然の家 所長
福井 京子 佐賀市女性の会 副会長

午後

1. 無料託児「地域のおばあちゃん」事業

— 木花婦人会の地域貢献と子育て支援 —

13:30~13:55

茜ヶ久保真由美〈宮崎県〉 木花婦人会 副会長

「地域のおばあちゃん事業」は婦人会の地域貢献プログラムである。内容は子育て支援のための無料託児。公民館を拠点に、子育てに奮闘する母親の「リフレッシュ支援」が目的である。託児の理由は問わない。そこがポイントである。最近では出前託児も行うようになった。事業の意義を行政が認識し補助金もできるようになった。地域婦人会による世代間交流の実践でもある。

2. 図書館のないまちの本に出会うためのお話し会

— 子どもと本・高齢者と本を繋ぐ“おはなしきびだんご”の活動 —

13:55~14:20

足利 結佳〈大分県〉本と出会う会やまんば 代表 會川 裕子〈大分県〉おにっ子クラブ 代表

平成9年度のスタート。本と出会う会“やまんば”と“鬼っ子クラブ”の共催。子ども達と本を繋ぐ舞台として、毎週定例の「読み聞かせ」、年2回の「お話し会」を開催している。図書館のない町で本と出会う楽しさ、喜びを伝えることが目的である。ボランティア活動を支え、子ども文化の運動を支える活動の拠点は公民館である。

～ティータイム～

14:20~14:55

3. 子育て情報誌の創造とボランティア・ネットワークの拡大

— うさ子育てネットワーク協議会の実践 —

田所 陽子・宇都宮玲子〈大分県〉 うさ子育てネットワーク協議会 情報誌編集委員 14:55~15:20

うさ子育てネットワーク協議会は平成12年度の発足である。ボランティアの母親による活動が協議会の基礎を形成した。インターネット及びメールが情報交流の中心になりつつある現在、あえて手渡しの「情報誌」にこだわっている。目的はできるだけ多くの人に生の子育て情報を流すことである。人々の関心が向上し、着実に情報掲載依頼が増加してきている。

4. 「放課後児童健全育成事業」への父母の挑戦

— 甘木市学童保育わんぱくクラブの15年 —

池田 洋子〈福岡県〉 学童保育わんぱくクラブ 指導員 15:20~15:45

「放課後児童育成事業」が学童保育の法律上の名称である。わんぱくクラブは1986年のスタートである。父母会による手作りの出発であった。学童保育が共稼ぎや育児だけに専念できない保護者を支えたことはもちろんであるが、最大の成果は「仲間の中でかわる子どもたち」を確認したことであった。学童保育は生活体験の場であり、集団体験の場であり、保護者の協力の場である。学校週5日制が実現した現在、その必要性和意義はますます高まっている。

5. 総括討論

15:45~16:15

(第3会場：2F第4研修室)

午後

■司会 坂木 和也 熊本県鹿本教育事務所 社会教育主事
久保田嘉子 福岡県宇美町 教育委員

1. 汗見川水源の涵養と地域活性化への挑戦

— 清流を活かした生涯学習まちづくりイベントの創造 —

川村 芳朗〈高知県〉 本山町汗見川活性化推進委員会地域づくり推進会 会長 13:30~13:55

山村の過疎はどの町も例外ではない。汗見川地域は高知県の水源であり、その清流と自然が資源である。活性化実行委員会では河畔林の整備の一環として、眺望を改善し、景観の美化に努め、地域による「岸つつじ」の植樹を行い、清流を活かした生涯学習まちづくりイベントに挑戦している。

2. 文化と自然を活かした活力あるコミュニティ創造への多面的アプローチ

— 唐津市かがみふるさとまつり —

牟田口光子〈佐賀県〉 かがみふるさとづくりの会 広報部長 13:55~14:20

「かがみふるさとづくり」事業は4つの柱で構成し、まちづくりへの多面的アプローチを試みている。小中高生を対象とした「百人一首大会」、「古代の森の梅まつり」、「かがみのお雛様展」、「山野草展」を組み合わせた事業。地域に眠る文化を掘り起こし、自らの地域を見直し、活力あるふるさとを創る。

～ティータイム～

14:20~14:55

3. くにもみ山麓音楽祭と図書事業を核とした生涯学習運動

— 世知原地域文化の創造と発信 —

迎 悟〈長崎県〉 世知原町教育委員会 社会教育主事 14:55~15:20

世知原は全町公園化宣言のまちである。まちおこしの活動は1987年から続いた「ボタ山コンサート（ボタコン）」の歴史がある。この歴史は1997年くにもみ山麓音楽祭に引き継がれた。併せて、世知原の生涯学習運動は図書室にアクセントを置いている。読書推進大会は既に12回を数える。町民一人あたりの貸し出し冊数も図書館を持たない自治体では長崎県内1位を誇っている。そして、目標は世知原地域文化の創造と発信である。

4. 子ども達が創る紅葉ロードレース

— 「学社融合」でまちづくり —

平田 正樹〈島根県〉 匹見町立匹見小学校 教諭 15:20~15:45

匹見は峡谷のまち、紅葉の名所である。まちを舞台に子どもたちが大会運営に参加する「紅葉ロードレース」は子どもが参加するまちづくり事業である。学校の視点からは学社融合のプログラムとなる。地域外の参加者が大会を支える子どもたちの姿に打たれ、子どもたちが作成した大会メダルをもらいたい、という思いでレースに参加している。

5. 総括討論

15:45~16:15

研究発表②



(第4会場：2F自由研修室)

■司会 山上 福範 長崎県野母崎町教育委員会社会教育課 派遣社会教育主事
田中 明子 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事

午後

1. コミュニティ・スポーツクラブの効用と活性化の条件

— 主役は自分、コミスポくすのき —

境 憲一〈山口県〉 コミュニティスポーツくすのき クラブマネージャー 13:30~13:55

高齢社会、地域の教育力が衰退しつつある時代の中心課題は健康と交流である、と捉えた事業である。コミュニティスポーツクラブの育成が最終目標である。遊び心を基本とし、多種目のスポーツを核にして、住民の交流を目指しながら、健康づくり、コミュニティ活動の意識の高揚がみられる。学校外における児童、生徒の活動の受け皿ともなりつつある。

2. 「しゅうとめの会」生涯学習の35年

— ボランティアから自分発見まで地域を活性化する熟女サークルの挑戦 —

清水 純子〈鳥取県〉 しゅうとめの会 会長 13:55~14:20

「会」は昭和43年に発足。以来、35年間活動を継続。目的は親睦と相互学習。「しゅうとめの会」主催の運動会、親睦研修会、「里味漬け」の製品開発と販売。ボランティア活動を通して生き甲斐を再発見し、「里味漬け」の生産、販売は活動・交流の範囲を拡大した。活動の拠点は町内の体育施設、山村開発センターである。

～ティータイム～

14:20~14:55

3. 「オヤジ夜究教室」の実験

— オヤジの異業種親睦、オヤジによる学習、みんなのためのまちづくり —

杉本 兼幸〈長崎県〉 大瀬戸町オヤジ夜究教室 会長 14:55~15:20

生涯学習講座「未来塾」が産み落とした男性のための実技講座。開催は平均月2回。副次的目的は異業種交流による親睦とまちづくりへの貢献。実技指導の講師は身近な人材を発掘。結果的に、男性の生涯学習の場を形成し、異業種間の連携によるまちづくりの「協働」体制が形成されつつある。

4. 生涯学習の広域連携から広域まちづくりの創造へ

— 「学社融合フォーラムin綺羅星7」事業の地域づくり構想 —

渋谷 秀文〈島根県〉 前津和野町教育委員会地域教育コーディネーター
大畑 伸幸〈島根県〉 益田市教育委員会地域教育コーディネーター
勝部 薫〈島根県〉 前益田市教育委員会地域教育コーディネーター
15:20~15:45

綺羅星7とは、益田市圏域7ヶ市町村の生涯学習事業に向けたニックネームである。2001年度の主題は「学社融合」であったが、最終的な事業目標は「広域の事業連携」から「広域の地域おこし」に繋げることであった。融合事業の報告会は、県内外から1,000名の参加者を集め、綺羅星7の連帯と意気盛んである。

5. 総括討論

15:45~16:15